

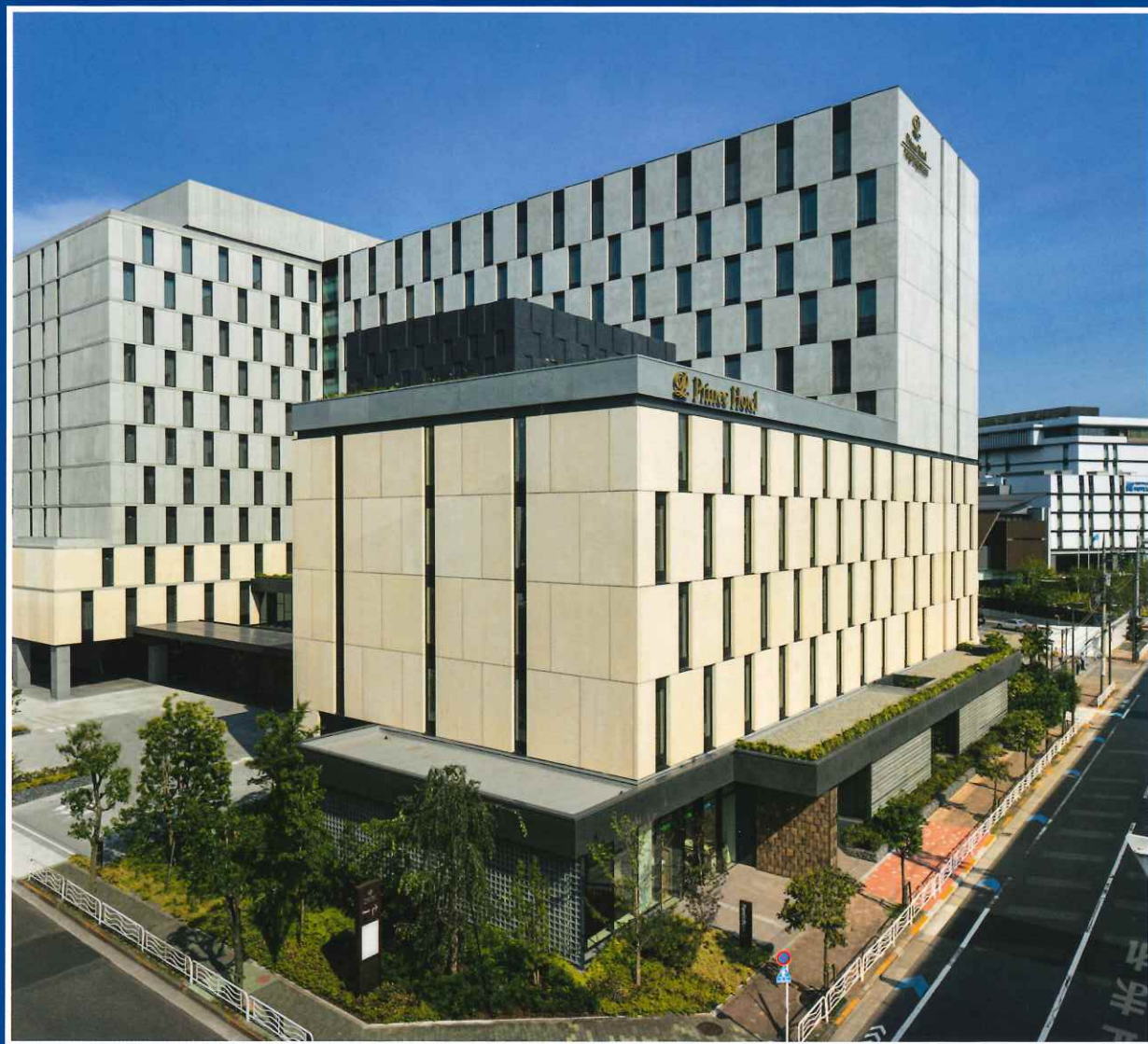
ROOFING / SIDING / INSULATION / RENEWAL

防水ジャーナル

2021

7

No.596



特集1 『建築保全標準』の概要と解説

特集2 いま使ってみたい施工機械と道具

THE BOUSUI JOURNAL

工事中における生き物の侵入

(有)鈴木哲夫設計事務所 代表取締役 鈴木 哲夫

建物の新築および改修工事を行っている最中に、小動物が建物内に侵入することがある。筆者の新築工事での経験では、天井内にネコが入ってしまい、追い出すことができなかったため天井点検口に梯子を架け、夜間のうちに自ら退出することを願ったという苦い経験がある。

建物の工事での内外区画は、窓サッシが取り付けられてから外壁工事が進められるのだが、納まりの関係で穴が開けられ、無防備な状態で隙間が残る。このような状態で一定期間放置されたり、閉鎖処理が忘れられたりすると、生き物が建物内へ侵入するルートとなる。

木造住宅の玄関ドアは、外部と内部空間の区画が不完全な期間がある。取り付け直後は、土間の仕上げが最終工程になる外構工事まで行われず、写真1のように建具下枠(杏摺)の下部に隙間が残されたままになる。小動物なら容易に出入りできる状態がかなり長く続くのだ。最近では、アライグマやハクビシンなども住宅街に出没する。このような状態が長く放置されていると、工事中にネズミなどの小獣類が人間より先に住み着いてしまう可能性が高くなる。それを避けるためにも、下部の隙間の閉鎖処理は、仮設でも構わないので設置後速やかに施しておくことが望まれる。

家屋に侵入する生き物は、ネズミのほか、ゴキブリやムカデ、ヤモリなどさまざまいる。昆虫類などの小動物は、写真2のような配管・配線など貫通部の隙間からもあちこちに移動するので、写真3のような貫通部周囲の閉鎖処理が必要である。木造住宅にはこうした貫通穴が多く、いざ住み始めてから大騒ぎになっても処理できないので、隙間処理工程を作業工程間に必ず位置づけるようにしたい。特にネズミは、繁殖期の春と秋のほか、晩秋から冬期にかけて家屋に侵入しやすく、被害が多い。マンションでは、外部階段を経由して外廊下を這い回っているところを目にするが、改修工事では、足場やネットを伝って上階に昇ってくるので注意が必要だ。ルーフバルコニーのある住戸では、工事での夜間に窓を開けていたらネズミが侵入して大騒ぎになったことがある。

ちなみに、ネズミの一部の種類は綱渡りがうまく、壁を駆け登るものもいる。工事でのバルコニーなどでは、掃出し窓の開けっぱなしを避けるよう注意喚起したい。



写真1 玄関扉の取付け後、相当な期間開いたままになる枠下の隙間

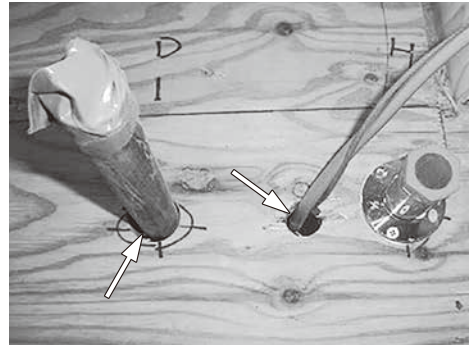


写真2 放置されることが多い配管・配線などの貫通部の隙間(矢印)

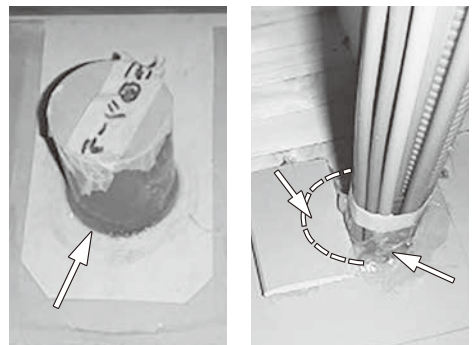


写真3 配管周囲隙間処理(左)と配線貫通部の余剰隙間の閉鎖処理(右)